

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000948		
法人名	株式会社 キュート		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	茨城県つくば市谷田部3393-1 (電話) 029-839-5200		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成21年2月20日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切に地域の人達との交流に参加する」を運営理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全職員で実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>運営者と職員は外部評価の結果をもとに、事業所便り「たんぼぼ通信」の発行やホームページを開設するなど課題を改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>各職員が取り組んだ自己評価をユニットリーダー会議で協議し、課題の改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は区長や市職員、家族代表等の委員で構成し、2ヶ月に1回開催しているが、幅広い意見や情報が収集できるよう委員の選定を見直すことを期待する。</p> <p>運営推進会議では非常災害時の協力体制づくりを話し合うなど、地域の人々とのネットワークづくりを進めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>運営推進会議時のほか来所時や電話などで家族の意見を聴くとともに、意見箱を設置し、用紙を備えるなど投稿しやすいよう工夫している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域行事に参加し地域の人々との交流に努めている。</p> <p>ホーム行事を回覧で地域の人々に知らせるとともに、地域の人々の理解や協力が得られるよう努めている。</p>

【情報提供票より】 (平成20年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	21人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要 (平成20年10月8日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	5	要介護2	9		
要介護3	9	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 80 歳	最低	62 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくば双愛病院
---------	---------

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやりと笑顔を忘れず一人ひとりの生き方を大切にし地域の人達との交流に参加する」を理念に掲げ、利用者が楽しく暮らせるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や各フロアーに掲示し利用者に周知を図るとともに、全職員で毎朝唱和して理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加し地域の人々との交流に努めている。 ホーム行事を回覧板で地域の人々に知らせるとともに、地域の人々の理解や協力が得られるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が取り組んだ自己評価をユニットリーダー会議で協議し、課題の改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長や市職員、家族代表等の委員で構成し、2ヶ月に1回開催している。 会議では非常災害時の協力体制づくりを話し合うなど、地域の人々とのネットワークづくりを進めている。 会議の委員が流動的である。	○	運営推進会議で幅広い意見や情報が収集できるよう委員の選定を見直すことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回開催の地域密着型サービス連絡会に積極的に参加し、行政から情報を得るとともにサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書や金銭管理報告を家族に定期的に郵送している。 ホーム内の様子は季節ごとに「たんぽぽ通信」を通して家族に報告している。 また、今年度よりホームページを開設している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時のほか来所時や電話などで家族の意見を聴くとともに、意見箱「みんなの声」を設置し、用紙を備えるなど投稿しやすいよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット全ての利用者を全職員で支援することにより、職員が離職した場合の利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部研修や勉強会の通知を掲示し、職員が資格を取得できるよう支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見交換や相互の施設見学を行っている。 また、勉強会に参加することにより職員の質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者にホームを訪問してもらう機会をつくり、早く馴染めるよう配慮している。 また、不安なく利用できるよう家族等から情報収集に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意なことやできることは職員と一緒にしない支えあいながら生活している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話を大切にし、意向を把握するとともに一人ひとりの希望にそって支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から情報を得、介護計画作成担当者、介護支援専門員、管理者、ユニットリーダーでケアプランを作成しているが、利用者全てに対応するまでには至っていない。	○	家族の都合により説明や相談ができない場合にはアンケートの実施や意見、要望の聴取により介護計画に反映することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族に介護計画を明示するとともに状態の変化に即して介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族に代わって通院支援を行うほか、状態が重度化した場合は安心してもらえるよう柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、利用者や家族の希望にそって主治医を決めている。 急な病気の際は協力医療機関に適切に受診できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の終末期のあり方について、家族や医師と話し合い方針を共有している。	○	家族の意見を聴くとともに、マニュアルを作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し、一人ひとりに合わせた声かけや支援に心がけている。 利用者関係の書類は事務所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースやニーズに合わせて、利用者本位の生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備や盛り付け、片づけなどを行っている。 良い天気の際は、敷地内の芝生で楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は決まっているが、利用者の希望を確認するとともにペースに合わせて入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、敷地内に季節の花を植えたり習字や編み物、俳句など個性を活かせる支援をしている。 利用者の持っている力を活かした役割分担をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の体調や気分に合わせて散歩や買い物、庭での野菜作りなどの外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階は施錠せず入り口にベルを取り付け出入りに注意している。 2階、3階の出入り口は階段があるため家族の了解を得て施錠しているが、利用者の希望によりすぐ解除できるようになっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時は隣接地の工場関係者や近くの食料品問屋などから協力が得られる体制になっている。 避難訓練は年1回実施している。	○	地域の人々の参加を得た災害訓練を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリーは、企業に依頼し管理している。 また、バイタルチェック表もつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には荷物等が入る移動式の畳を壁面に設置し利用者の利便を図っている。 また、季節ごとに掲示物や植物を入れ替えるとともに利用者の作品を飾るなど居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が使い慣れた物品や仏壇などを持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。